

手根骨に転移した肺癌の1例

山梨医科大学整形外科¹⁾山梨医科大学第2病理²⁾佐藤栄一¹⁾ 渡辺寛¹⁾ 前川慎吾¹⁾山田明香¹⁾ 浜田良機¹⁾ 加藤良平²⁾

要旨

症例は80歳の男性。左手関節部痛と腫脹で当科を受診。既往歴では、1年前に肺癌と診断され当院で放射線治療を受けていた。初診時、左手関節背側部の腫脹、発赤、熱感があり血液所見でCEAの著明な上昇もみた。X線およびCT所見では有頭骨の高度な骨破壊があった。切開生検術にて、肺癌の骨転移と診断。その後放射線治療、モルヒネ投与を行い、症状の改善をみた。

Key Words : 肺癌、転移性骨腫瘍、有頭骨

はじめに

今回極めてまれな肺癌の左有頭骨への転移症例を経験したので報告する。

症例

患者：80歳、男性

主訴：左手関節部疼痛、腫脹

現病歴：当科受診の約1か月前頃より、左手に力が入らないことに気づいた。その数週間後には左手関節部の疼痛、腫脹が出現したので当科を受診した。

既往歴：肺気腫（2年前）、肺癌（1年前）

入院時現症：手関節背側部にびまん性の腫脹、発赤、熱感があり、疼痛のため手関節ならびに指の高度の可動域制限をみた。

入院時検査所見：血液生化学所見でCEAが77.2ng/mlと著明に上昇していた。X線所見では、有頭骨の骨破壊があり（図1）、CT所見ではその変化は一層明瞭で、矢印で示すように手背部に向かって膨隆する腫瘍陰影をみた（図2）。以上より、肺癌の有頭骨転移を疑い切開生検術を行った。灰白色の脆弱な肉芽様組織がみられ、その病理組織所見では大型の核を有した異型の強い細胞が腺管様に配列し、その細胞間質にはosteoidを認めた。また肺癌診断時の気管支洗浄細胞診では、核のクロマチンは増量し、大型の核小体を有するN/C比の高い異型細胞が認められclassVの腺癌であった（図3）。

術後経過：60Gyの放射線照射、硫酸モルヒネ20mgおよび手関節固定用装具を装着し、満足な結果がえられた。

考察

悪性腫瘍の手指骨への転移はまれである。Goldら¹⁾は3000例の悪性腫瘍例中5例0.16%、Clain²⁾は2001例中5例の0.25%、Wuら³⁾は41833例中6例の0.01%と報告している。さらに昭和47年から国立がんセンターの平成8年の全国骨腫瘍登録患者一覧表⁴⁾においても13139例中41例の0.31%である。その理由として、手指骨は赤色髄が少ないこと、血流の絶対量が少ないこと、また外気にふれ低温で新陳代謝が低下しているなどが考えられている^{5,6)}。さらに部位別にみると指節骨29例と最も多く、中手骨10例、手根骨2例であり、手根骨骨転移が最も少ない。

悪性腫瘍特に肺癌の手指骨転移発症後の予後は概して不良であり、亀井ら⁷⁾は発症後6か月以内に死亡することが多いと報告している。したがって治療についても切断術や抗癌剤の投与なども考えられるが、生命的予後が不良であることを考えると症例のQOLを重視したものが中心となることが多い。今回の症例においてもその観点からHealeyら⁸⁾が除痛効果に優れていると報告している放射線治療モルヒネ投与を施行したが、その結果疼痛、腫脹の改善が得られ、患者は良好なQOLを獲得した。

まとめ

今回極めてまれな肺癌の左有頭骨への転移症例を経験し、放射線照射、モルヒネ投与などにより満足した結果が得られたので報告した。

文献

- 1)Gold G.L,et al:Carcinoma and metastasis to the bones of the hand.JAMA184:237-239,1963
- 2)Clain,A.:Secondary malignant disease of bone.Br.J.cancer 19:15-29,1964
- 3)WuKK.,etal:Metastatic tumors of the hand;a report of six cases.J Hand Surg3: 271-276, 1987
- 4)日本整形外科学会骨軟部腫瘍委員会:全国骨腫瘍登録一覧表,国立がんセンター,東京,1996
- 5)Nagendran T.,et al:Metastatic carcinoma to the bone of the hand.Cancer45:824-828,1980
- 6)前山 巖ら:がんの四肢末梢骨転移. 整形外科 20:1404-1405,1969
- 7)亀井 治人ら:手指転移をともなった肺癌の4例.肺癌 30:935-939,1990
- 8)Healey JH.,et al:Acrometastases.J Bone and Joint Surg68: 743-746,1986

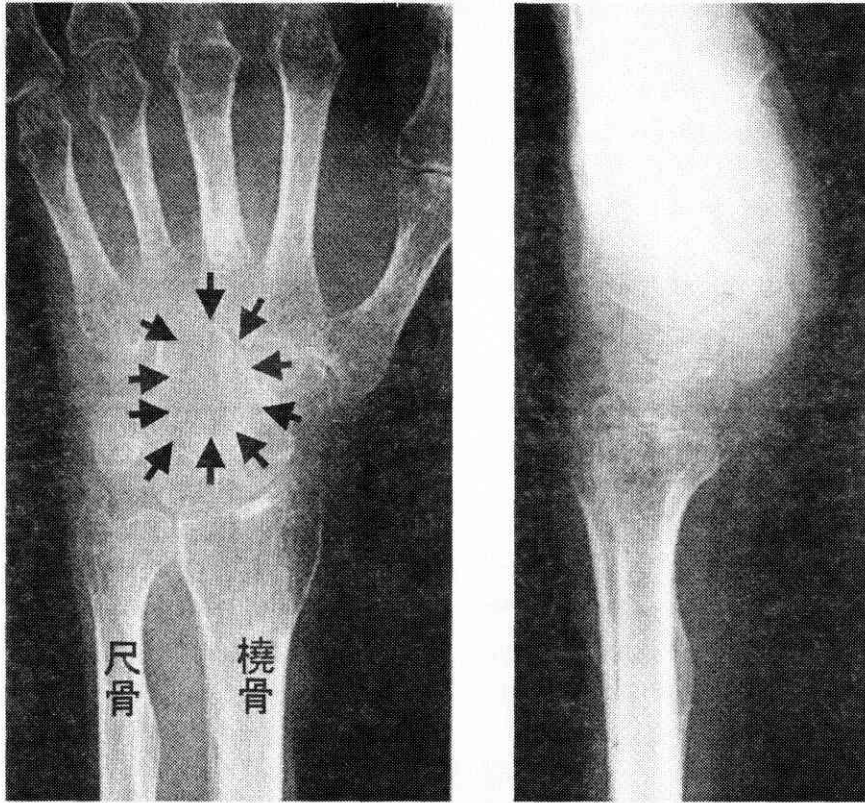


図 1. 全体的に骨萎縮を認めるが、特に有頭骨の陰影は不明瞭である。

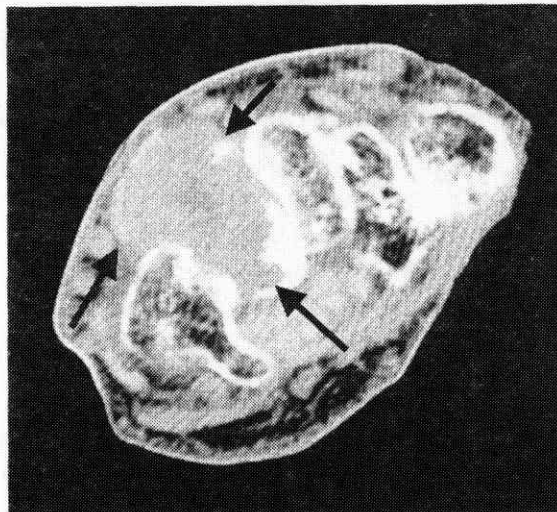
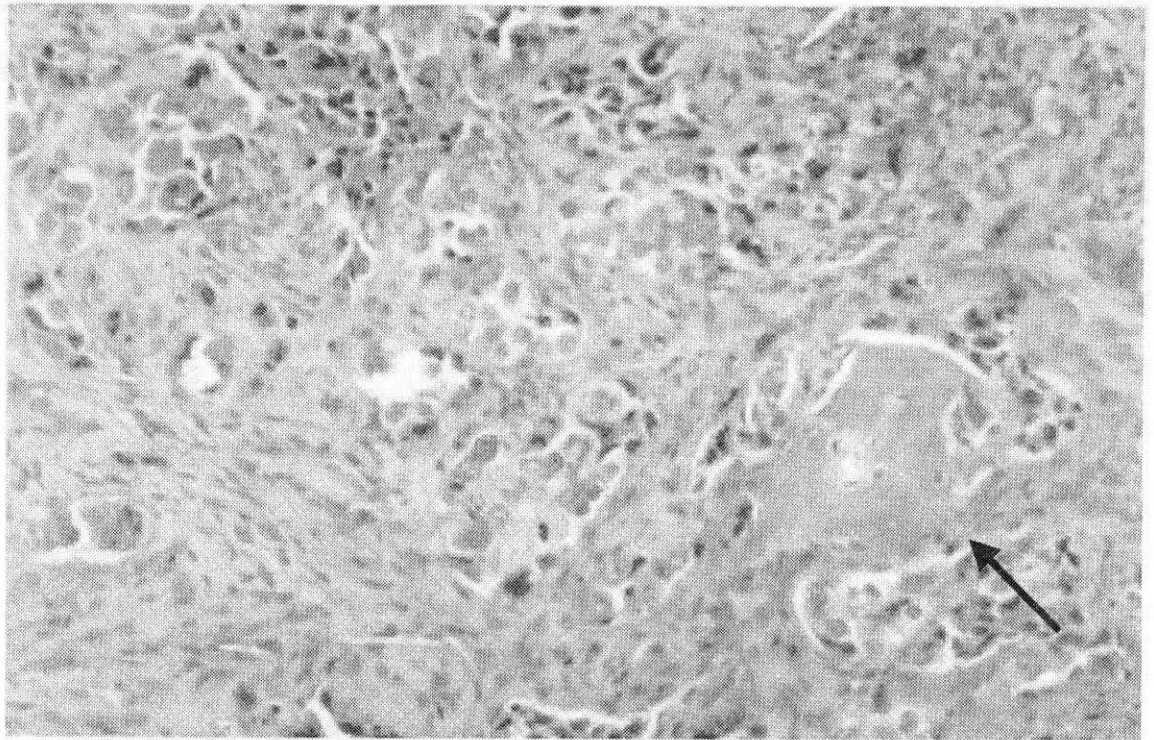
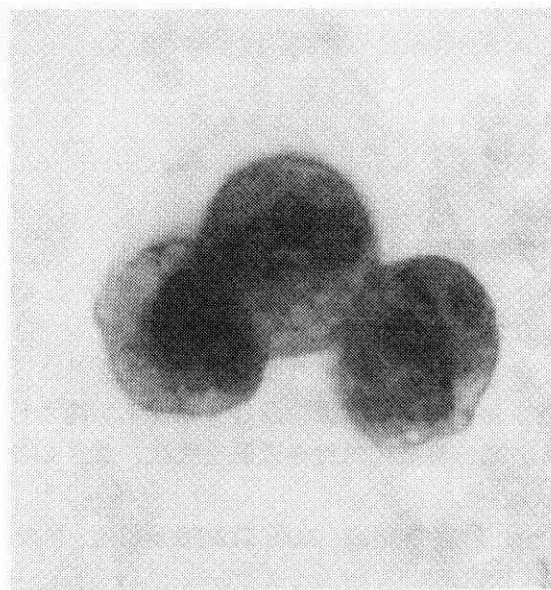


図 2. 有頭骨は破壊され、手背部に膨隆する軟部腫瘍をみる



H. E. × 100

図3. 大型の核をもつ異型細胞が腺管様に配列し、一部にosteoidをみる



× 40

図4. 大型の核小体をもつ異型細胞をみる